

「おしもの悩み」や「おしっこトラブル」、 女性泌尿器科外来で治療しませんか？

福山市民病院 泌尿器科 有地 直子

コンセプトは

“女性のための 女性泌尿器科医による 女性泌尿器科分野の専門外来”

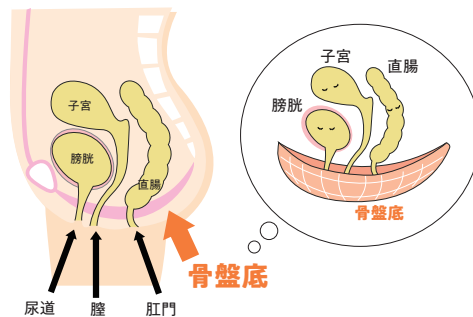
2024年4月より女性泌尿器科外来を開設しました。泌尿器科というと男性をイメージする方が多いかもしれませんが、女性特有の泌尿器科の疾患はたくさん存在します。「おしもの悩み」「おしっこトラブル」を抱えていながら、恥ずかしかったり、どこに相談したら良いのか分からず一人で悩み続けている女性のための外来、それが「女性泌尿器科外来」です。例えば、股から何か出てくる、尿が近い、尿が漏れる、などの症状で困っている方は女性泌尿器科外来で相談してみませんか。

福山市民病院では、毎週火曜日と木曜日の午後、女性泌尿器科専門の女性医師の診療を受けることができます。

骨盤底について

骨盤底は文字どおり、骨盤の一番底の部分、股の部分のことを言います。女性の骨盤底は筋肉や靭帯で構成され、その上にある臓器（子宮、膣、膀胱、尿道、直腸）を、さながらハンモックで吊り下げたように支えています。妊娠やお産により子宮や膣、その近くの骨盤底を支える筋肉や靭帯は傷つきやすく、ダメージを受けた部分が次第に緩んでくる場合があります。特に中高年期以降はホルモンバランスが変化し、骨盤底の支えが緩みやすくなります。他にも、体重が増えたり、重いものを持ち上げたり、便秘を繰り返したりすることも骨盤底の緩みの原因となります。骨盤底の緩みがひどくなるとさまざまな症状を引き起こし、日々の生活にも影響してきます。その代表的な病気が「骨盤臓器脱」と「尿失禁」です。

ハンモックのように臓器を支える骨盤底



骨盤臓器脱について

70歳前後の女性に多く、子宮の吊り上げ機能や膣の緩みが原因で膣から子宮や膀胱、直腸が飛び出してくる病気です。30歳代、40歳代の比較的若い女性にも見られることがあります。“お風呂に入った時に、膣からピンポン玉みたいなものが出ている”、“股に何か挟んだ感じがする”などの表現をされる方が多いです。

子宮の吊り上げ機能が緩んで膣から子宮が飛び出てくる、いわゆる子宮脱も骨盤臓器脱の一つですが、実は子宮以外の臓器、膀胱や直腸が飛び出てくることの方が多いです。“膣から膀胱や直腸が飛び出てくる”とはどう

骨盤臓器脱～こんな症状、ありませんか？～

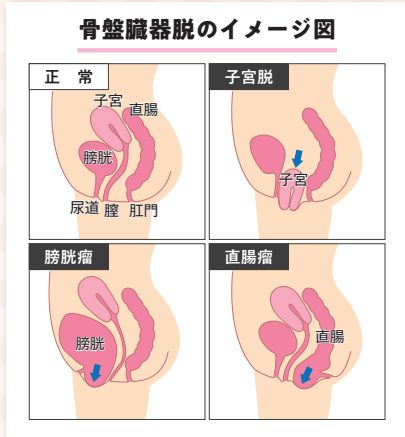


ということでしょうか？この病気を説明する時によく使う例えがお餅です。お餅を焼くと弱い部分がぷくっと膨れます。膣の壁も弱くなると、お腹に圧がかかった際にぷくっと膨れて出てきます。そこに

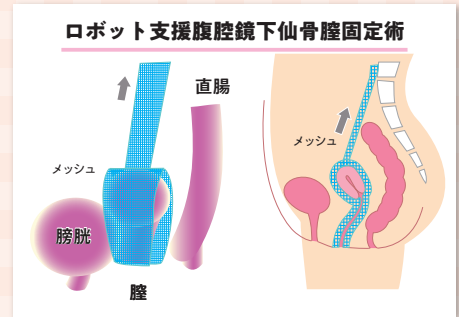
膀胱や直腸が落ち込んで飛び出した状態を、骨盤臓器脱の中でも膀胱瘤、直腸瘤と呼んでいます。

骨盤底の緩みが原因ですので、骨盤底を鍛えるトレーニングをして

進行を抑えたり、膣にリング状の装具(ペッサリー)を入れたり、サポーターをつけて膣から臓器が飛び出さないように工夫して生活している方



もいます。しかし、根本的な治療は手術しかありません。お腹に1cm程度の小さな穴を4-5カ所開けて、メッシュを膣の前後に挿入し縫い付ける「仙骨膣固定術」という手術を行います。メッシュが膣を補強するフェンスのような役割を果たし、膣から臓器が飛び出てくるのを防ぎます。2020年にロボット手術が保険適応となり、当院でもロボット支援腹腔鏡下仙骨膣固定術を開始しました。手術時間は3-4時間で、手術翌日から歩いたり食事をすることが可能です。ロボット手術のメリットは手術の際に「手」の役割を担う「鉗子」と呼ばれる機器が人間の手が入り込めない狭い部分でも自由自在に動くことで、精度の高い手術が期待できます。

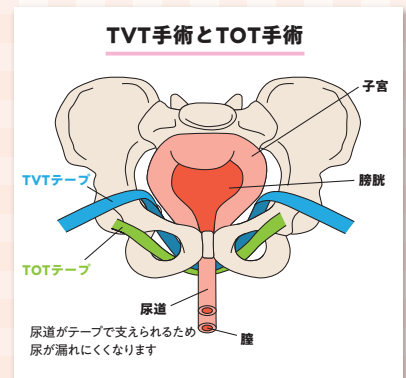


尿失禁について

成人女性の3~4人に1人が尿失禁の経験があると報告されています。その半数以上が咳やくしゃみ、重いものを持ち上げる動作などで、お腹に力を入れると漏れる「腹圧性尿失禁」です。尿道は骨盤底によって支えられていますので、骨盤底が緩むとお腹に力を入れた時に、支えを失った尿道がぐらついてしまいます。これが腹圧性尿失禁の原因です。治療は、骨盤底を鍛えるトレーニングを行い、尿道周囲の筋肉を鍛えることが重要です。

尿道を閉じる力を高めるような薬を処方することもあります。なかなか治らない場合には手術を検討します。TOT手術やTVT手術といって、膣を1cm程度切開し、尿道周囲に長細いメッシュテープを通す手術です。メッシュテープによって尿道が支えられるため、腹圧が加わっても尿道がぐらつかず尿が漏れにくくなります。手術時間は通常1時間以内で入院は3-5日と短期間です。

一方、急に尿にいきたくなり我慢しにくくなる病気(過活動膀胱)のために、トイレまで間に合わず漏れてしまう方もいます。このタイプの失禁を「切迫性尿失禁」といいます。これは膀胱が自分の意思に関係なく勝手に収縮することが原因ですので、膀胱をリラックス(弛緩)させる薬で治療します。



「おしもの悩み」や「おしっこトラブル」は非常にプライベートなことで家族にも相談できず一人で悩まれる方が多いです。どちらも生活の質を大きく損なう可能性があり、外出控えや社会からの孤立、うつ症状を引き起こすこともあります。この記事が少しでも多くの方々の目に留まり、病気について、治療について知っていただくことを願っています。「おしもの悩み」や「おしっこトラブル」を抱える女性の方々、女性泌尿器科外来で相談してみませんか？これまで「歳のせいだから…」、「仕方ない…」と諦めていた方が「治療しよう」と前向きになれるよう、今後も情報を発信していきます。